

広報のひろべ

市の人口

(10月末現在)

総人口	51,714 (66減)
男	25,837 (49減)
女	25,877 (17減)
世帯数	15,271 (19増)

()内は前月との増減

●No 200 ●毎月1日・15日発行 編集発行/登別市中央町/登別市総務部公聴広報課



さあ！冬将軍よ来い

こちらはカルルススキー場。

いよいよ冬の観光シーズン幕明けです。冬将軍の到来とともに、目の前に銀世界が広がるのも間近かです。今年もたくさんのスキー客を迎えようとスキー場の係員たちは、リフトのペンキ塗りや機械の整備点検に忙しいひとときを過しています。

地元の旅館でも年末からの予約客の電話申込みに、その応待で忙しい毎日です。

国勢調査結果

(50年10月1日)

総人口	50,890 (4,364増)
男	25,200 (1,713増)
女	25,690 (2,651増)
世帯数	14,843 (2,814増)

()内は昭和45年との比較であり、数字はいずれも概数となっています。

12.1

1975

広報発刊二百号記念座談会

「これからの広報にのぞむ」

登別市が発行している「広報のほりべつ」は、昭和二十六年九月に創刊号を発行してから、今年十二月一日（本号）でちょうど二百号を迎えました。

市では、これを記念し市内各団体の代表者をお招きして、「これからの広報はどうあるべきか」「広報に何を望むか」について座談会を開き、話し合っていました。

ご出席をいただいた方は、次の方々です。

- ◎登別温泉地区連合町内会 須賀武夫さん ◎登別地区連合町内会 須藤善作さん ◎登別地区連合町内会 三井松雄さん ◎登別市婦人団体連絡協議会 遠藤喜美子さん ◎登別青年会議所 佐々木一さん ◎登別青年団体連絡協議会 今田秀樹さん ◎登別市老人クラブ連合会 和田弥平治さん ◎登別市商工会議所 小野寺勇さん ◎登別観光協会 小沢隆信さん ◎登別市文化協会 大山吉次さん ◎登別市農業協同組合 竹村権四郎さん ◎登別市長 田村仙一郎 ◎司会 公聴広報課長 千葉勲



市長 田村仙一郎

市民の意見を

生かした広報へ

市長 いそがしいところを、おいでいただきましてありがとうございます。

日頃から市政の推進について、いろいろご協力、ご理解をいただき、ありがとうございます。

広報のほりべつは、私が庶務係をしていました時、当時（昭和二十六年九月）は町政だよりという名称で、広報の創刊号を発行しました。

その後、色々苦勞もありましたが、今回の十二月一日で二百号をむかえることになりました。

ところが、これまでの広報は、地方的に市民に知られるという、お知らせ広報の域を脱していません。

そこでも、今日お集まりのみなさんに、ご意見を聞き、よりよい広報づくりをめざして努力を重ねていくつもりですので、よろしくおねがいします。

司会 これまでの広報についてご意見をおねがいします。

広報は読まれていたでしょうか。須藤さん 広報というものはその性質上、読む人と読まない人が出てくると思うけど、例えばこの間の大形ゴミ回収の時に、街の中を歩いてみて大形ゴミが山積みになっていたのを見て、びっくりしたのですが、これは広報のほりべつを読んだ証拠だと思えます。

大山さん 自分に密接な関係のある記事は良く読みますが、あまり関係のないものは読まないようです。

早く届けてほしい広報

須藤善作さん



遠藤喜美子さん

遠藤さん 広報が私たちの家庭に届く時期がおそいと思います。

子防接納など必要な事は、早く知りたいのですが。

広報係長 一日号は前月の二十六、七日頃、十五日号は、その月の十一、二日頃に各町内会の広報配布責任者に対し、配達または、郵送することになっています。



須賀武夫さん

司会 現在、一日号は四頁、十五日号は八頁という紙面構成ですが、議会・市政の焦点などの行政記事を前半に、次に市の日常業務の中から連絡事項を、シリーズものおしらせという順番で編集しています。

このような紙面の内容、市政の取りあげ方などは、これでよいでしょうか。

須賀さん せっかく発行している広報ですから、良く読まれる工夫をすべきと思います。

むすかしくなく、誰にでもわかるような解説をしてほしいですね。大山さん 活字を読むことの多い広報ですが、最近ではテレビの普及によって見るものが増え、活字を読むことに抵抗を感じます。見出し、写真の使われ方をよく

し配慮をしてほしいと思います。須藤さん 私は広報のほりべつを特にほめようという考えはないのですが、他の広報にくらべ官庁用語は少ない、写真やカットも適当に入っていて、しかも編集がよいので読みやすい広報紙だと思っています。



大山吉次さん

ただ一つ注文をつけるとすれば、親しみもてる広報という点で登別市内の観光地「たねばな湖」「不動の滝」などは、観光都市といわれながら、案外知られていないと思います。

連載もの、特集記事でもよいから広く市民に紹介すると、さらに良くなると思っています。

若い人を

ひきつける記事を



小沢隆信さん

小沢さん 広報のほりべつを一番読んでいないのは、若い人たちだと思います。私も目を通してみて感じたのですが、内容が一般家庭を対象につくられていて、若い人の興味もてるものといえ、スポーツ短信という、小さな記事

サラリーマンと年末調整

十二月には、サラリーマンにとって確定申告にかかわる大事な手続ともいえる年末調整がそれぞれの勤務先で行なわれます。

年末調整とは、毎月の給料やボーナスから概算で源泉徴収している所得税の年間合計額と一年間の給料等の総額について、正しく計算した税額との過不足を精算する手続です。

そこで、次の書類をまだ勤務先に提出していない方は、年末調整に間に合うようお早目に提出してください。

- 扶養親族等の数に異動があった方——扶養控除等（異動）申告書
- 自分で直接支払った社会保険料、生命保険料、損害保険料がある方——保険料控除申告書
- 四十八年分か四十九年分の確定申告によって住宅取得控除を受けた方——住宅取得控除申告書（税務署から送付された「住宅取得控除証明書」を添付します）
- 住宅貯蓄契約に基づく貯蓄を行なっている方——住宅貯蓄控除申告書（貯蓄先が発行する「住宅貯蓄証明書」を添付します）

大部分のサラリーマンは、年末調整によって所得税の精算が終了しますので、改めて確定申告をする必要がありません。しかし、雑損控除や医療費控除が受けられる方、また、今年から初めて住宅取得控除が受けられる方、他に一定額以上の所得がある方については、翌年の二月十六日から三月十五日までの間に確定申告をする必要があります。



三井松雄さん

ぐらいいです。もつと若い人をひきつける記事もとりあげてください。司会 市長が広報について、特に気をつけていることは、一方交通的な昔の官報的なものでなく、市民に考えてもらう材料を提供すること、市政に市民を参加させるための広報づくりをすすめたという事です。

三井さん 先ほど広報委員会の話が市長さんからありましたが、よい話だと思います。ただ、今の説明によると一つのことを決定するに時間がかかりすぎることにやはりほしくないか、という疑問があるのですが。

市長、ある程度の日数は必要になります。多くの市民が納得のいく市政をすすめるため、市民の自治意識が育っていくという点では、多少の時間はやむを得ないのではないのでしょうか。

小野寺さん 市民の声という欄があります。私はこの企画は良いものだと思います。

例えば、市が事業を計画しようとするとき、地域ごとの市民の声を聞くための「市民の声」の欄であれば、これをもつと拡大してもよいと思います。

小さい活字は困る

和田さん 私が新聞を読む時は「登別」と書いてある記事を読みます。広報であれば、漁村に住んでることから漁業に関する話題、そして私は老人ですから、老

人間問題が出てくるとよき教育という傾向があります。ただ、時々小さい活字の表が出てきますが、これは小さすぎるので、紙面の都合もあると思うが、できるだけ大きく扱ってください。司会 これからの広報はどうあるべきかについて、ご意見はありませんか。



和田弥平治さん

広報は広報自体のキャンペーンを

佐々木さん 広報を良く読んでもらうためのキャンペーンを実施してはどうでしょうか。

広報というものは、読まなければ損をするのだ、というように広報に対し認識を強くうえつけるキャンペーンが必要だと思います。

また、一頁ぐらいは、広報委員の方に全面的にまかして、何を掲載してもよいのだということ、実施してみるのも面白いと思います。

今田さん 予算が少ない中から発行している広報ということですので、紙質はもっと落してもよいからページ数をもつと増やして、



佐々木一さん

自身の良いものを作ってはどうでしょうか。先ほどみなさんがのべられた意見を反映するためにも、一つの方法だと思えます。

遠藤さん 広報の活字が小さいことについては、先ほど和田さんからお話ありましたが、文化祭の日程表、市の機構図など特に小さかった。今後はこのようなことのないようにおねがいいたします。

竹村さん 農業や漁業といった産業経済の話も、わかりやすく載せてほしいと思います。市民は意外と農業の実態について知らされていないし、私は将来の産業発展のためにもぜひ、広報を通じて将来の農業などを、紹介してほしいのです。

司会 市民と市をつなぐパイプ役としての広報のあり方については、いかがでしょうか。

須藤さん 五万人市民共通の話題というのは、そういつも出てくるとは思えませんので、地域の問題であつてもみんなで考えるという方向。例えば、公共下水道を布設するという時には、どこの地域からはじめるかという問題などを広報で提起するのは、どうでしょうか。



今田秀樹さん

広報紙だけに たらぬ広報を

佐々木さん 広報紙だけで市民と市をつなぐパイプ役は、果たさずかかしていると思えます。

広報でさえ、あまり市民に読まれているとすれば、広報だけにたよらずテレビ、新聞などその他の媒体をもつと積極的に利用すべきだと思います。

私たちの周りには、非常に多くの情報が何の規制も受けず、しか



小野寺勇さん

も無制限に入りこんでいます。こうした社会の中で、市政を市民に理解させるということになれば大変な努力と頭脳と、強力なスタッフが必要になってきます。

よほど、強い刺激を与えような広報活動でなければ、なかなか市民に強く訴えることができないと思います。そして、同じ問題であつてもくりかえして、市民の脳裏にうえつけることも一方法ではないでしょうか。

須藤さん 五万人市民共通の話題というのは、そういつも出てくるとは思えませんので、地域の問題であつてもみんなで考えるという方向。例えば、公共下水道を布設するという時には、どこの地域からはじめるかという問題などを広報で提起するのは、どうでしょうか。

市長 広報のほりべつが創刊から回を重ねて、二百号になったのだといつても、市役所だけで作ってきたものであり、市民の声があまり入っておらず、あまり改善もされずに、しかも同じ担当者が継続して広報づくりを行ってきたのが実態です。

これらの反省の上になつて、これからは少しでも良い広報づくりをめざして、市民に親しまれる広報づくりを行なっていくために、一つの制度として、広報委員会を設置するというのが趣旨です。

そういうことから、たまたまみなさんから非常に参考となる意見をいただき、誠に感謝いたしております。

広報座談会で 市民の意見を

須藤さん 広く市民の声を生かそうという着想は、良くわかります。しかし、実際問題として、私も過去に新日鉄の組合の教宣部長をやつていて、機関紙発行の経験がありますが、この仕事は本当に大変な苦労があると思います。

市の今の体制の中でも、月二回の広報発行は担当者にとって、大変な負担であると考えますので、広報委員会制度を作ることによつて、広報の発行がよくなるという問題がでてきて、今の体制ではなかなかむずかしいと思います。

ただ、市民の声を吸いあげるといふ点では、賛成です。編集委員会にまで発展させることなく今日のような座談会を、市民各層別に開催するなどして、いろいろ



竹村権四郎さん

な意見を聞く方法が、むしろ実効的だと思ふし、手段としては実際的だと思ふます。

市長 今より少しでも前進させるために、市民の意見を聞くことというのがねらいです。

今後今回のような座談会を開催し、継続して行なっていきたいと思ひます。

本日は忙しいところ、熱心にご意見、ご希望をたまわりました。本当にありがとうございます。ぜひ、今後の広報づくりの参考にさせていただきます。

国保財政大ピンチ!! 納税にご協力を

当市の国民健康保険に加入している方は、十月三十一日、三千七百九十六世帯、一万一千三百九十四人おります。これは当市全人口の二十二パーセントの加入率です。

保険加入者の医療費をまかなうためには、その経費の三十六パーセントを納税して、のこりの六十四パーセントを国からの補助金などで行なうことになっております。

しかし、十月三十一日、国民健康保険の収率率は、三十三・六パーセントと、昨年同様に比較して、四割ほど下まわっております。国民健康保険の取納率がさがること、国からの補助金が減額されますので、国保財政が大ピンチになります。

こういう事態をさけるためにも国民健康保険税を未納の方は早急に納入されますようお願いいたします。

しあわせを みんなでつくる 助けあい

●歳末たすけあいに ご協力を

市民ひとりひとりが明るくお正月を迎えることができるよう歳末たすけあいに協力をお願いします。 登別市社会福祉協議会

おしらせ

12月の健康相談

毎週木曜日、みなさんの身体や心に関する相談に応じたいです。十二月の相談日は次のとおりです。ぜひご利用ください。

▽実施日及び受付時間

十二月四日・十一日・十八日・二十五日

午前の部 十時～十時三十分
午後の部 一時～一時三十分

▽内容

○午前：成人病相談（生活・食事指導）・妊娠相談・家族計画相談
○午後：赤ちゃん相談（六カ月児九カ月児）その他相談のある乳幼児（育児指導）

▽場所

中央公民館和室

赤ちゃん検診

市では、医師、保健婦、栄養士による赤ちゃん検診を次の日程で行ないますので、受診者は必ず母子手帳をご持参ください。

▽対象児

昭和五十年九月生まれの乳児

▽内容

計測、診察、栄養指導、育児指導

▽用意するもの

バスタオル、変えオムツ、母子手帳

▽日程

十二月十九日（豊別公民館）

▽受付時間

十二時～十二時三十分

12月の予防接種

十二月の予防接種を次の日程により行ないます。

次の点に注意して受けてください。

○体温は必ず家で計ってくださること
○種痘接種後一カ月を経過していない乳幼児は、他の予防接種は受けられません。

○インフルエンザは、三歳以上の希望者で料金は一回三百五十円（二回接種）です。ただし、中学生以下は無料です。

実施場所	時間	種別	インフルエンザ
ひまわり園	1:00~1:30		12月10日
			12月17日
豊別支所	2:00~2:30		12月10日
			12月17日
富浜児童館	1:00~1:30		12月9日
			12月16日
中央公民館	1:00~1:30		12月11日
			12月18日
豊別支所	1:00~1:30		12月10日
			12月17日
豊別温泉支所	2:00~2:30		12月9日
			12月16日

股関節脱臼検査

市では、室蘭保健所との協力のもとに、毎年乳児の股関節脱臼検査を行なっています。

今年度第三回、四回目の検査を次の日程で実施いたしますので、対象児はもれなく受診されますようご案内いたします。

▽対象乳児

生後三月以上一年未満の乳児

▽受診料

無料

一人 六百円
▽母子手帳を持参ください

※日程

十二月十八日・十九日

※受付（同日とも）

午前の部 十時～十一時
午後の部 十三時～十四時

※場所 中央公民館

※問い合わせ先 市保健衛生課

野犬掃討を行ないます

十二月十日から昭和五十一年三月三十一日まで、野犬掃討を市内各地域で行ないます。

飼犬は、二層以内のくさりでつなぐか、おり飼いをし、放し飼いはしないでください。

もし、放し飼いをしている時は野犬が飼う意志のないものとみなし捕獲処分しますので、十分な管理をしてください。

○毒餌（硝酸ストリキニーネを飼料に加えたもの）をけい留されていない犬に投与します。

○麻酔銃によって捕獲します。

市営住宅

入居者募集

市では、幌別町八丁目九番地（幌別東団地）と新生町三丁目二二番地（千代の台団地）に市営住宅を建設しています。

この市営住宅は、十二月下旬に完成することになっていますので入居を希望される方は、次により申し込みをください。

▽募集戸数

幌別東団地 一種 二十四戸
千代の台団地 二種 十二戸

▽予定家賃

幌別東団地・三DK 一万九千五百円

千代の台団地・二DK 一万円
三DK 一万二千元

▽入居可能日（予定）

昭和五十一年一月二十日

▽募集期間

十二月五日～十三日までです

▽申し込み場所

市建築指導課住宅係（電話五局二一一一内線二六五）

※市営住宅に入居する方は、収入などに制限がありますので、市建築指導課か、もよりの支所にあります市営住宅入居募集案内をご利用ください。

無料「特設人権相談所」を開設

札幌法務局室蘭支局、室蘭人権擁護委員協議会では、特設人権相談所を開設します。

人権についての問題、借地、借家についての問題、戸籍についての問題、登記についての問題、金銭貸借についての問題、家族の問題等日常生活でお困りの方は、お気軽にご相談ください。（秘密は固く守られます）

とき

十二月八日（月）
十時から十五時まで

ところ 中央公民館（市役所うら）

相談員 札幌法務局室蘭支局長 地元 人権擁護委員

お貸しします

公害防止資金

公害が人の健康や生活環境を破壊するということ、大きな社会問題となつていきます。

このように公害を防止し、健康で快適な生活を送るためには、北海道公害防止基金から貸付金をお貸しします。

和五十一年度の公害防止資金の貸し付けを、昭和五十一年四月一日から行ないますので、希望者の方は十二月二十日までに、市役所公害防止課まで申し込みください。

●貸し付けする事業者の範囲
水産加工業、畜産業、木材製品製造業、砂利採取採石業、食料品製造業、建設業、運送業、印刷業サービス業、その他

●貸し付けの対象

昭和五十一年四月一日～昭和五十二年三月三十一日までに、公害防止施設の改善、整備、移転を完了する企業

●融資条件

○利率 年三%

○融資期間

十年（すえ置き期間二年以内）以内

○限度額

二千万円（所要経費の八十%以内）

年末・年始のくみ取り業務

し尿くみ取りは、十二月二十日までに申し込まれた方は、年内に完了しますが、それ以降に申し込まれた方は、一月六日から行ないます。

なお、申し込み受付事務は、年末三十日まで、年始は一月六日から始めます。

年賀状は早めに

出しましょう

年賀状を元旦の配達に間に合うように、早めに書き上げ、十二月二十日頃までに方面別（市内、道内、道外）に東ねてお出し下さい。

郵便番号は、あて名にも添し出す方にもお忘れなくお書き下さい。

市町村名、番地、肩書きをはっきり書き、お子さんがお友達

に出す年賀状には、父兄の肩書きを書いて下さい。

※ 贈答用小包は、十二月十日までにお出し下さい。
小包の包装は途中で破損しないように、丈夫な包装材料を使用し、荷札も二枚つけて下さい。 豊別郵便局

「ご寄贈ありがとうございます」

「社会福祉協議会へ」

豊別婦人会 二万三千四百九十円、豊別中学校生徒会 一万九千五百円、豊秋鏡子殿 一万円、クラブチャリス従業員一同 九千八百三十九円、澤田政一殿 三千円、匿名 二千八十五円

○古切手寄贈

豊別温泉小学校 四千五百枚、持丸太郎殿 五百三十三枚、豊別市青年ボランティア連盟 一千八百枚、幌別小学校 五百枚、絵内陽子殿 一千十枚、木戸裕子殿 三百枚、奥村ハル殿 二千九百九十八枚、萩野貞雄殿 二百枚、木村ノブ殿 七枚

○物品寄贈

千葉幸一殿 衣類六十点、豊別中学校生徒会 衣類五十点、林俊則殿、ワラ布団二枚、寺島三津重殿 衣類三点、小田正司殿、紳士ズボン二足、匿名、衣類九十点

冬の交通事故をなくそう
車間距離は夏場より多めに